

文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

筑波大学・東京科学大学



「地域医療の多様なニーズにシームレスに
対応できるオールラウンダーの養成」

令和4年度 事業報告

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

事業推進支援室

令和 4 年度の成果

1 事業運営委員会、事業推進支援室の設置・運営

本年度は令和 4 年 9 月 20 日に第 1 回事業運営委員会(キックオフミーティング)を開催しました。また、事業評価委員会構成員に関するメール審議を令和 5 年 2 月中に 2 回実施しました。キックオフミーティングでは本事業の趣旨や目的、到達目標などについて関係各部署で共有するとともに、本年度の事業内容の確認および来年度以降の事業に向けて準備作業を行いました。令和 5 年 3 月 10 日には第 2 回の事業運営委員会を開催して、令和 4 年度の事業実施内容および評価委員会の結果を踏まえて、令和 5 年度の事業計画について協議を行いました。

また、専任の教員と事務職員を配置し、その作業環境を充実させて、円滑に事業が実施できる体制を確保しました。実務担当者間でのミーティングを週 1 回実施し、関係各部署との調整や本事業を推進するための活動を行いました。

2 e-learning システムの構築・運用

筑波大学では、大学を超えた e-learning システムの共同利用の先進的なモデルとして、60 を超える大学が連携する「がんプロ全国 e-learning クラウド」として運用している実績を有しています。本事業では、このノウハウを活用して、新たな e-learning システムの導入に取り組みしました。

具体的には、「がんプロ全国 e-learning クラウド」の仕組みをベースとして、大学を超えて履修でき、単位も発行できる新たな e-learning システムを構築しました。また、全国の他の GP 採択校にも共同利用の門戸を開くため、システムの運営業務の一部を外部委託する仕組みを取り入れました。このような工夫により、豊富な機能と高い安定性を有し、教育のニーズに合わせて大学の枠を超えて柔軟に運用可能な e-learning システムを、極めて安価に利用できる仕組みを実現しました。この取り組みは GP 採択拠点連絡会議や全国フォーラムにおいて広くアピールして、多くの大学から賛同をいただいています。

3 教育プログラム・コースの開発・実施

本事業では、ポストコロナ時代における「地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダー」を養成するために、地域医療においてニーズの高い横断的な領域として、①地域医療、②総合診療、③緩和医療、④感染症、⑤難病・慢性診療、⑥救急医療の 6 領域に関する体系的な教育を取り入れています。具体的には、連携する筑波大学・東京医科歯科大学において、これらの領域に係る診療科・部門がそれぞれの強みを生かしつつ協力して、10 種類の教育プログラム・コースを導入しています。

本年度は各プログラムのコース履修者に対して統合されたカリキュラムを実施するとともに、来年度以降さらにカリキュラムを充実させるための準備を行いました。また、本補助事業の実施に必要な教育資材(シミュレーター、ソフトウェア、診察手技トレーニング用器材、書籍など)の整備も実施しました。

さらに、各教育プログラム・コースをより充実させるために、学生実習を受け入れている県内の施設への視察、および先進的な取り組みを行っている他大学・医療施設への調査・見学ならびに情報交換も行いました。視察件数は県内:8 件・県外:9 件を実施しました。県外の視察施設一覧は以下の通りです。

【県外の視察施設一覧】

視察日	視察者	視察先
12月16日	堀内明由美、片岡義裕	大島医療センター（東京）
1月6日～7日	堀内明由美	ほっちのロッチ（長野）
1月19日～20日	久野遥加	オレンジホームケア（福井）
2月6日	都田佑樹	大塚医院ファミリークリニック（埼玉）
2月9日～11日	小曾根早知子、鈴木綾香	HITO 病院（愛媛）
2月22日～24日	舩本祥一	神津島診療所（東京）
3月2日～4日	木村友和	琉球大学病院・おきなわクリニカルシュミレーションセンター・中頭病院（沖縄）
3月6日～8日	孫瑜	長崎大学（長崎）
3月10日	舩本祥一	向日葵クリニック（千葉）
3月16～18日	木村友和	岡山大学（沖縄）

4 オンデマンド教材の作成

本年度は各教育プログラム・コースの中で使用するオンデマンド教材の作成を開始しました。具体的には、「総合診療学修プログラム」の教育プログラム・コース内でメンタルヘルス（アルコール問題、うつ診断編、うつ治療編、不安障害、不定愁訴診断編、不定愁訴治療編）に関するオンデマンド教材作成し実習中に学生が学習できるようにした他、筑波大学の「地域における感染症対応学修プログラム」と東京医科歯科大学の「地域医療における感染症診療・感染制御の実践的学修プログラム」共同で手指衛生および個人防護具に関する動画作成、「地域医療における難病診療学修プログラム」内で、在宅診療を VR で追体験できるよう、神経難病の在宅医療についてのオンデマンド教材の作成、そして「地域医療における多職種連携（嚥下障害・口腔ケア診療）学修プログラム」内で摂食嚥下口腔ケア診療を VR で追体験できるよう、ポータブル嚥下内視鏡や嚥下超音波検査を用いた最新の在宅医療についてのオンデマンド教材の作成を開始しました。

また全国共同利用を視野に入れた、e-learning カリキュラムの最初のモデル例として総合診療領域を取り上げ、総合診療・家庭医療の範囲を網羅するオンラインコンテンツ開発に向けて、内容を整理し、他の GP 採択校の総合診療領域の指導担当者（高知大学・阿波谷敏英先生、富山大学・高村昭輝先生、千葉大学・鋪野紀好先生）と協働して体系的なシラバス作成を行いました。

5 本事業を紹介する web サイトの公開

本年度は第1回全国フォーラムの当番校であったため、第1回全国フォーラムに関するポスターおよび web サイトを作成し積極的に情報発信を行いました。Web サイトには全国の採択拠点の紹介動画も掲載し、わかりやすく内容を理解できるようにしました。

また、筑波大学・東京医科歯科大学の「地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダーの養成」のロゴとパンフレットを作成し、本事業に関する初期版 web サイトも令和5年3月24日に公開しました。

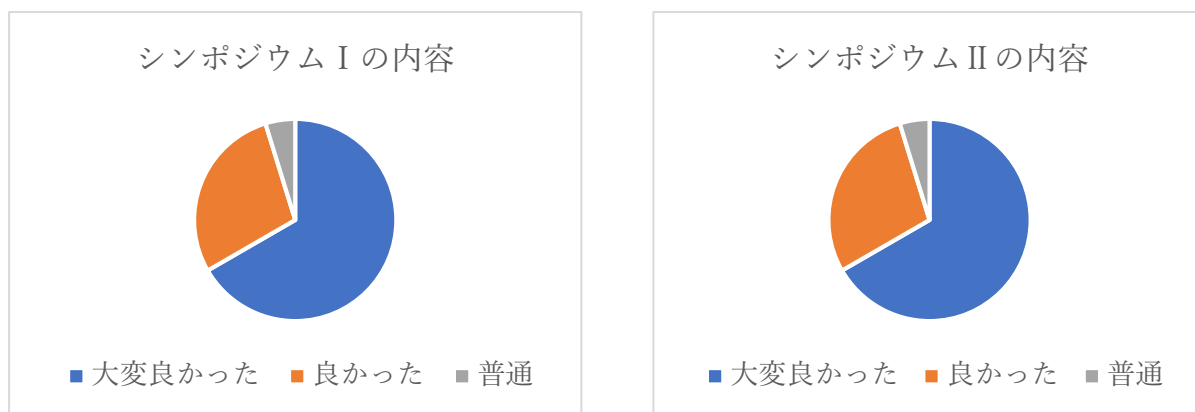
6 キックオフシンポジウムおよび全国フォーラムの開催

本 GP の趣旨や到達目標などについて共有および第 1 回全国フォーラムに向けての内容の協議のために令和 4 年 11 月 7 日に全国の採択拠点に参加する第 1 回採択拠点連絡会議を開催しました。また、第 1 回全国フォーラムが開催された令和 5 年 1 月 11 日(水)午前中に E-learning システム共同利用などについて具体的に意見交換を行うため、第 2 回採択拠点連絡会議を開催しました。

第 1 回全国フォーラムは令和 5 年 1 月 11 日(水)13:00~16:00 に一橋講堂で実施しました。シンポジウムⅠとして「本事業で養成すべき医師像」をテーマとし、東京大学名誉教授・地域医療振興協会顧問・本事業選定委員長北村聖先生、新型コロナ対策分科会会長・結核予防会理事長の尾身茂先生によるプレゼンと意見交換が行われました。シンポジウムⅡでは「本事業の今後の展開と連携のありかた」をテーマとし、全国の 11 の採択拠点がシンポジストとして登壇し、主に教育コンテンツの共同利用と拠点間の連携について意見交換が行われました。

全国フォーラムには 93 名が参加し、参加後のアンケートでは下記の通り良い評価を頂きました。

【第 1 回全国フォーラム:参加者アンケート】



【第 1 回全国フォーラム:参加者の感想(一部抜粋)】

- ・ 今後の拠点間連携についてのディスカッションを聴き、大変勉強になりました。
- ・ がんプロでの優れた先行事例のおかげで、教育コンテンツの共同利用について、実現可能性がぐっと上がってきていることを感じた。
- ・ シンポジウムⅠで示唆された本事業が向かうべき方向性を共有しながら、連携が図られた実り多いパネルディスカッションでした
- ・ e-ラーニングの活用、共同利用、そして自立まで課題やみなさんが悩んでいらっしゃる様子が分かり、今後も共同して解決していくものと思いました。

7 事業評価委員会の開催

本事業を定期的にモニタリングして次の改善につなげるとともに、外部評価委員を含む評価委員会を開催して、事業の妥当性、進捗状況、効果などについての評価を行うため、令和 5 年 2 月 22 日(水)に評価委員会を開催しました。事業の妥当性、進捗状況、効果などについて評価を受けた内容を令和 5 年 3 月 10 日の事業運営委員会で共有し、今後の改善につなげるようにしました。